京城新報

陰曆十月二十七日
發行兼編輯人 山下[illegible]
發行所 京城新報社 電話六六三

論説

完全なる倶樂部を設置せよ

南山生

[illegible]

通報艦の能力

[illegible]……を來し二萬噸の戰鬪艦……等が續々橫須賀呉等にて……過日神戶にて進水せられ……艦僅かに千二百噸にて通報艦なる特別……と云ふ同艦種の如き……力上に大影響を與ふ……は非ざれども日露戰……早龍田等が各艦に隷……らしめたるに徴し艦……らざるものたるを知……名の示す如く主とし……るものなれば現時の……る時代となりては其……は自然の數なれども……發達完全なるに拘は……等を要するが如く海……要は決して滅却さる

べきなり今其能力及び用途の一斑を列擧せんに艦體輕小操縱敏活にして且つ速力を有する事が同艦主要の能力にて

(一)通報傳令等の急務に應ぜんが爲に適宜狹隘なる水路を通過し小なる灣灣に出入し或は淺瀨の沿岸を航する如き事自由なり

(二)武裝は强大ならざるが故に强行偵察は爲し能はざるも强方を要せざる場合には臨時に偵察任務に服し得べし

(三)主力艦隊の警戒航泊中艦前側面等に配置せられて哨艦或は通信艦たるに最適當す

(四)或る場合には襲擊に赴くべく驅逐隊を保護しつゝ伴航し得べき餘裕あり且つ自ら敵驅逐隊を擊攘するに足るの武力を有す

(五)大艦隊旗艦の側面に位置して旗艦の信號を受繼ぎ聯合艦隊をして同時に信號を了解せしめ得る如き場合に用ゐるの便宜大なり

(六)司令長官のみが他に急行する如き場合に旗艦たる戰艦巡洋艦等を動かすの煩累と不經濟とを避けんが爲に臨時通報艦に轉乘して其用に供する如きは平時戰時を問はず至大の便法として用ひらるゝ所なり

要するに大驅逐艦と偵察巡洋艦との中間に位する軍艦にして其任務上より攻擊防禦の兩力即ち戰鬪力に重きを置かず主として行動の輕快敏捷を期し然かも相當の航海性に富ましむる樣設計せられたる特種軍艦なりと云ふ

台灣鐵道の成績

臺灣鐵道の營業狀況を見るに其創設當時に於ては延長哩數も無論多からず而かも島內に於ける產業萎靡として振はず殊に本島人の之を利用するの途を知らざりしより絕えず貨客の數甚だ少なく缺損に缺損を重ねつゝありしが縱貫鐵道が年々の延長は人文の開發殖產興業の奬勵發達と相俟ちて島內の事情漸次一變し鐵道を利用するもの數を增加し三四年の後に至りて始めて收支相償ふを得たり然りと雖も尙は南北兩端に切斷されし縱貫鐵道は其兩端に於てのみ徐々に相接近し來るのみにて未だ縱貫鐵道の効果を擧ぐる能はざりしが卅八年の初に當りて基隆を起點とせるものは伯公坑まで打狗を起點とせるものは胡蘆墩に達し其間僅かに九哩餘を殘すのみ輕便鐵道を此間に利用して始めて縱貫鐵道の形式を現實にするに至り未だ完全とは云ふべからざるも兎に角南北交通の機關備はりたるより彼我の交通は勿論貨物運搬の上に多大なる變化を來し卅八年度の營業成績は從來曾て見るからざりし好結果を呈したり此鐵道の貫通は更らに殖產興業の發達を誘致し產業の發達は益鐵道營業の上に多大なる影響を與へて卅八年に於て月々增加せる貨客の稍力は卅九年に入りて益々劇增するに至れり去れば臺灣鐵道の基礎は卅八年度に於て始めて固りたるものにて此年の成績は全く縱貫鐵道の將來に於ける發達の單位を示したるものと云ふべし今左に卅三年以後卅八年中の貨客運賃收入額を比較すべし(左表中手荷物小荷物を除く)

年度	乘客	貨物	合計
卅三	二十三萬圓	十五萬圓	三十八萬圓
卅四	三十三萬圓	十六萬圓	四十九萬圓
卅五	四十一萬圓	二十八萬圓	六十九萬圓
卅六	五十一萬圓	四十一萬圓	九十二萬圓
卅七	五十八萬圓	五十萬圓	百八萬圓
卅八	八十二萬圓	八十四萬圓	百六十六萬圓

其增加の速かなること殆ど汽罐車の軌上を疾驅するが如きものなり見よ卅三年度には僅かに四十萬圓に過ぎざりしもの五年目の卅七年度には百八万圓に上り倘は其翌年には一躍五割以上の劇增を爲して百六十六万圓に上れり而かも卅七年度と卅八年度との哩數を比較するに卅七年には二百卅哩なりしに卅八年は僅かに本線道十九哩七分と輕便鐵道九哩四分の增加ありしのみ斯くの如き少許の延長によりて前線に於て五割以上の增收を見たるは如何に縱貫鐵道の貫通が產業の上に裨益を與へ且つ鐵道營業の上に好果を招致したるかを知るべきなり

重要輸出入品生產及び分配狀況(五)

仁川商業會議所調査

(三)大豆　大豆の出廻りは例年十一月までにして十二月より漸次品薄となり一月二月は出廻り薄きを常となすこれ大豆の產地は沿岸各地に在りて海路により廻送せらるゝが故に結氷期に入るに從ひ出廻りを減じ三月に至らば解氷と共に各地の圍ひもの漸次入津を見るべく從ひて一月より三月中旬に掛けては相場强含みにて一月相場は上一石七圓三十錢下七圓、二月は一石七圓六十錢下一石七圓二十錢に當れり三月中旬以後は解氷のため出廻り漸次多きを加ふるに至り輸出も從つて行はるゝより相場は上一石平均八圓二十錢下一石七圓七十錢となり前月に比し約四十錢方騰貴せり四月に入りては出廻り餘程減少して相場は上一石八圓八十錢下一石八圓三十錢見當となれり五月となりては上旬は捗々しき取引なく相場は保ち合にて長端上もの叺込八圓六十五錢次品八圓四十五錢龍山上もの八圓五十錢位次品八圓四十五錢太田八圓三十錢中旬に至りては買手筋の思惑なるべし相場叺込五十錢方の騰貴を示したるも弗々取引あり生れ値よりは二三十錢方の見越買かと思はれしが果せるかな月末に至り望手多く且つ阪地高に連れて氣配よく長端大玉叺込九圓二十錢龍山同樣太田九圓位にて平素は此三者の間二三十錢位の値開きあれども相場高値となりし爲め格別値開きなく直組出來せり

六月中旬となり滿州もの販地に出廻はり多く且つ販安の爲め自然需要なりしも當地は時々帆船積の突飛なる買手顯はれ相場は持合の商狀を呈し小口ながら取引行はれ旬末に至りては五六十錢方下落し月末に至るまで持合のまゝ經過し出廻はりは小口ながら弗々之れあり輸出口は相應の商內ありたり七月となりては最早品薄となり弗々小口ものゝ出廻はりを見るに過ぎずして上旬は相場も安保合にて一向に取引なかりしが中旬に至りても殆んど格別の出廻はりもなく大俵にて七圓九十錢手合なり下旬に入りては最早出廻は殆盡して氣配宜しく八圓二十錢にて取引出來しも月末には品切れの姿となれり此月の穀物協會の斗量受渡高は僅々三十叺に過ぎず八月に入りては人氣大分宜しきも出廻はりなき爲め出合行はれず下旬に至り小口もの弗々出廻はりあり出來直は無叺入八圓と云ふ處にて月末には入津薄く從てサヘ〳〵しき商內なく相場は龍山上ものにて八圓九十錢呼口直なりし九月に入りても入荷殆んど皆無にて品少く上旬は中等もの八圓〇五錢中旬長端もの八圓二十錢月末は龍山もの八圓八十錢にて小口ものゝ手合ひ行はれたり

韓國棉花栽培擴張

韓國棉花栽培協會に於ては從來其の經費一ヶ年僅かに二万五千圓に過ぎず從つて其試作の反別の如きも百町步內外に過ぎざれば過日加藤政之助氏の渡韓の結果韓國政府とも協定の上明年度より年々十万圓宛を支出し大に此れを擴張することに決したれば同事業は將來優に三千町步位までに耕作を擴張し得る見込にて延いて同國人の遍ねく耕作を爲すに至らば年々米國印度其他の方面より輸入する一億二千万圓の棉花貿易に一新變革を見るに至るべしと言へり

文苑

佳羅丹之幾　玉井南軒

冬野
嵯峨の野は萩も薄もかれはてゝ比枝山颪吹きすさびなり

杜寒草
冬されは信田の森もあれはてゝ名のみ殘れる霜の下草

岩間氷
岩間もるれは氷りて谷川は落つる木の葉もなくてかれけん

岩間雪
さなきたに岩間をとぢはてゝあしはも立すゆきそわつらふ

椎柴嵐
夜嵐はいかに吹きけん我宿の椎の梢に殘る葉もなし

海邊の鈴蟲
諸打つ波も靜けく夜は更けて海士が軒端に鈴蟲の鳴く

浪花の地をさまよひ出でし時よめる
浮世をば旅より旅とたもへども昨日の宿は戀しかりけり

意氣銷沈といふ事を
何れ身は浪花の海の捨石の澪標ても浮ぶ瀨ぞなき

歌集をからにしきと名づけたることを
春の彌生の鳥の音も、
秋の千種の蟲の音も、
何れか歌と書かざらむ。
雲にも月にも有りあけの、
人のこゝろの鏡こそ、
まことの影の轉寫なれ。

小說

紋のみだれ(十七)　水井櫻園

松岡は到頭釣込れて、一瞬ツと乘出て

「それほど人氣があるんなら、隨分大膽な客だらうね。」

山田は得意さうに

「大膽は客にもなんにも、毎晩七時頃にや木戸締切ちまう。丸で勝を雜誌に仕たやうな騷擾で、身動もならない大入だ。其客の七分は確に其女の人氣で呼んでるんだから剛氣なもんだらう。昨夕なんかは三勝を語つたが、實に旨いもんだつた。眞箇天才としきや思へない。」

「それぢや兼々君が浩嘆して居つた女義太界も、少しは活氣を帶びて來たね。」

「實際活氣を帶て來た。熟々考へて見るに、先代榮枯盛衰は興亡常ない如きもので、先代の綾之助や越子、小土佐、小房なんと云ふ若手連が互に雌雄を爭ふた時代が、先づ明治年代の最も隆盛時代で、此の十年ばかりが最も落寞時代かと思はれる、尤もこの十年間が凋落時代となつたのには種々の原因があつて、妙腕の太夫が出なかつたのも一つの原因ではあるが、彼の綾之助等が全盛時代のやうに、妄に寄席で聽かれなくなつたので、世に所謂堂摺連なるものが少なくなつたのも一つの原因であらうと思ふのだ。いづれにしても盛衰浮沈は免れない自然の道理で、盛つて衰へたんだから、這度は又榮ねばならない順序に向つてるのだ。それでまあ這度のやうな天才が出るやうな事になつたんだと思ふのだ。左に右一度聞きに往つて見給へ、まだ老熟の域には入らないが、先づ若手の女義太には實に稀とす

と、[illegible]くのである。

「いや、[illegible]に適たる名手が[illegible]く迄[illegible]するんなら定めて名手に相違ないから、では兩三日中に是非出掛て見やう。」

「さうか、私から[illegible]、是非[illegible]てやつて吳れ給へ。」

「何だか[illegible]ではないか、[illegible]でもあるのかい。」

と、[illegible]の[illegible]を[illegible]る。

「なあに何にも關係なんか有りやしないが、[illegible]のために、大に[illegible]る[illegible]があると思ふのだ。」

「どか何とか云つて、旨く[illegible]から何だか賞めやう[illegible]から[illegible]か。」

と、[illegible]笑する。

「笑談ぢやない。まだこの正月から[illegible]に出たんぢやないか、いくら何だ[illegible]何して關係なんかあるものか。」

「君のやうな好男子は何とも云へ[illegible]、、、、キャツ大層長談したが……。」

だらう。時計を忘れて出たが……。」

「まあ時計なんか奈何でも宜いぢや[illegible]正月おやらう。」

云ひつゝ、懷中時計を取出して

「モウ五分で四時だ。まあ寛り爲[illegible]賤義を一緒にやらうぢや無いか。」

「あ、有難いがこれから友人の宅[illegible]稽習する約束になつてるから、失[illegible]

と、立かゝる。

「然うか、それじや强ては勸めな[illegible]したね。」

「さうだ明日見物に出て來ないか[illegible]

「あ、確乎は分らないが、大抵は[illegible]意だ。」

「では、失敬。」

「あ、失敬。」



京城新報

自衛團の前途

元獨立協會首領にして彼の一進會員中會韓柱氏と共に重を爲せる自衛團部長尹始炳氏は今回突然其職を退きたり、余輩は尹氏の退職が何の理由に由るかを審にせずと雖も氏の實弟にして目下觀察使の職にあるところの尹吉炳氏が極力自衛團に反對する事實に想到すれば蓋し尹氏退職の理由を知るに苦まさるべし、今や宋秉畯は遠く東京に赴かんとす此際に於て自衛團部長の退職あり同團の前途知るべきのみにあらずや

海關脫税者

海關脫税者頻々として現るとの噂說あり、而して其方法の巧妙にして大膽なる實に言外なりと云ふ、或荷物には僞造統監御用の札を付けられ或荷物には僞造某大官の名刺を挾めりと云ふ、余輩は切りに巷說を信ずるものにあらずと雖も若し事實なりとすれば由々敷大事なり、居留民は未だ關税同盟の惠に浴するを得さる今日斯の如き手段により同盟以上の便宜を獲取するとは不屆千萬なり、其筋の人々希くは嚴密なる注意を拂はれんことを

北京電報

▲制度觀察員出發

憲法制度視察員達壽氏は本日日本へ向け出發したり(二十九日發)

東京電報

▲韓太子護衛艦

韓國皇太子警護として軍艦宗谷の外第二艦隊千代田千早の二艦を派遣せらるゝこととなり本日下關を出港せり(三十日發)

▲石井局長歸京

太平洋沿岸視察中なりし石井外務省通商局長は明日歸京の筈なるが加奈太勞働大臣レミユー氏は來月二日同局長と會見し交渉を開始する筈なり(二十九日發)

雜報

官制發布の延期

官制の制定に就て韓國政府側の各大臣より異議を統監に訴へ爲に統監邸に於て各大臣及次官參與官等の協議を開かれたる由は昨紙既報の如くなるが尙聞く處によれば伊藤統監は相互の主張全然拒み難き事情ありて一昨日は遂に決定に至らず從つて豫定の如く統監の出發までには發布するに至らず一と先づ東上の後會議統監を以て居中調停の勞を執らしむる筈なりと

地方委員會

第二回地方委員會は十一月二十八日度支部內に於て開會委員全部出席、來賓荒井次官、鈴木稅務部長、稅關財務課長臨席、税務官開會の辭を述へ次て荒井次官より別項の如き訓示あり藤川書記官は今回度支部に委托せられたる驛屯土徵收に關し懇切なる說明あり夫より訊問事項に移り各委員は頗る熱心に審議する處あり翌廿九日引續き開會、終て荒井次官は一同巴城館に招待せられ晩餐の饗應あり各委員が開期の短きに拘はらず熱心審議したる勞を慰し且つ諸子の熱心は必ず其効果を揚るを豫想すとの挨拶あり通律委員は各委員を代表して謝意を述へ自今一層其職務に勉勵すべき旨を述べ主客歡を盡して散會したり

荒井次官訓示要領

元來地方委員會設定の趣旨は官民の意思を疏通し政府より發する財務に關する法令訓令に付地方委員其間に立ちて廣く人民に關知せしむるの勞を取ると云ふ重大なる任務に基けり故に諸君は能く其趣旨を了知し之を實行するを要す今日韓國に於ける財務税務に就ては從來と全く其面目を改め新政の周知を圖るに今日尤も緊要となす所なれば地方費は政府の命令を能く人民に關知せしむると同時に人民の意見を能く政府に傳へざるべからずされば諮問事項に對しては遠慮なく各自の意見を發表し審議せられんことを希望す又從來經理院に屬したる驛屯土の税租は本年度は度支部に委托せられたるを以て度支部より徵收して宮內府に納むる順序となりたれば納税者の誤解なき樣一般人民に說明し周知の勞を採られん事を希望す云々

官制發表と宮內官

去月二十七日夜宮內府官制の裁可ありしも宮內府大臣は何人にも之を示さず宮內府官吏は今尙其內容を知るものなき有樣にて兼て噂さ高かりしこと〻て多數の官吏は自已の位地に不安を抱き執務に安んせずとされば官制發表の曉には宮官者の不平動搖を免かれざるべく就中動搖の虞れあるは主殿院に屬する三百有餘の巡檢及び七百餘の護衛局砲隊にして昨今稍々動搖を始たりと云ふ

●仁川の滿洲宗谷歡迎

滿洲宗谷兩艦歡迎協議會は豫報の如く昨日午後四時より開かれたるが左の如く決定す

一、時日は十二月三日午後三時
一、會場は仁川俱樂部
一、官民有志の歡迎をなし會費を二圓とし餘興費は民團より支出す
一、將校以上五十名を招待する事
一、新井中將へ電報を發する事

尙水兵には日本酒及湯劵を呈する事

長谷川大將の送別會

長谷川大將は伊藤統監の送別を兼ね本日午前十時より統監府高等官及韓國政府の重なる人々を大觀亭に招き小宴を催す由

仁川韓太子奉迎準備

來る五日仁川韓太子御通過の砌り仁川官民は左の方法を以て奉送の意を表する事に決せり

各戸國旗球燈を吊り煙火十發を打揚げ日本公園地便殿に御休憩の折は三種酒を呈する事尙韓國側にて緑門を設くる場合は其費用中幾分を仁川民團より補給する事

●韓皇室費の豫算 來年度韓皇室費の豫算は百五十萬圓にして內三十萬圓は德壽宮費なりと云ふ

皇太子御留學諸費

韓國皇太子が日本語留學に要する旅費及裝束其他の諸費は左の如く決裁せられたりと

御留學資金二萬圓　臨時費金一萬圓
宮內府大臣李允用　一萬二千四百圓
農商部大臣宋秉畯
陪從武官長趙東潤　二千三百五十圓
庶事　高義敬　三千七百圓
宮內府秘書官尹世鏞、敎官嚴柱日、陪從武官金慶善、表勳院書記官鄭東植、農商工部秘書官李範益　七千圓
宮內府書記郎　高義中　七百圓
宮內府大臣隨員　李昌夏　三百圓
宮內府農商工部大臣臨時費　二万圓
總計金七万六千四百五十圓
外に侍進官嚴柱益の分あり

報聘大使隨員

韓皇室より報聘大使として本邦へ派遣せらるゝ完興君李載冕氏の隨員は左の如く任命せられたり

永宣君　李埈鎔
宗簿司長　李達鎔
學部事務官內閣總理大臣秘書官事務囑托　上村正巳

●騎兵隊復設 韓國騎兵隊は去八月軍隊解散と共に解散されたるが軍部にては皇帝行幸其他儀仗の爲め騎兵隊一中隊を設置せんと內閣會議に提出したりとのことなるが遠からずこれが實施を見るに至るべしと

自衛團部長の退職

一進會自衛團部長尹始炳氏は再昨日突然退職したりと云ふ又同氏の實弟觀察使尹吉炳氏は何故か同團に反對なりと云ふ

●自衛團組織 珍山に自衛團を組織し細則を設けたり

宮內府官制 (承前)

第十五條 宮內府大臣は所屬官廳內各課の處務分合及び處務規程を定むることを得
第十六條 宮內府大臣は帝室會計監査事務に干涉するを得
第十七條 宮內府に次官を置き勅任とし宮內府大臣を補佐し府務を管理し大臣官房其他所屬官廳の事務を指揮監督す
第十八條 宮內府に秘書官二人を置き奏任とし大臣及び次官の命を承け機務を掌る又必要なる場合には命を承けて書記官の事務を補助せしむ
第十九條 宮內府に書記官三人を置き奏任とし宮內府大臣及次官の命を承け府務を掌らしむ
第二十條 宮內府に左の官廳を置く
大臣官房　侍從院　掌禮院　承寧府
皇后宮　東宮　奎章閣　內藏院
典膳司　主殿院　帝室會計監査院
宗親家職
第二十一條 大臣官房を人事、庶務、調査、主馬四課に分ち左の職員を置く
人事課長一人 宮內府大臣秘書官を以て充つ
大臣官房印璽守及官吏の進退任免陞級敍品敍勳恩賞懲戒に關する事務を掌る
庶務課長一人 宮內府書記官を以て充つ
勳爵勳興褒賞贈賜進獻及公文接受發送編纂保管統計報告其他各官廳に屬せざる事務を掌る
調査課長一人 宮內府書記官を以て充つ
諸般法規の起草審査及財産財務に關する文案の審査事務を掌る
主馬課長一人 宮內府書記官を以て充つ
乘御車馬乘具及調馬に關する事務を掌る
事務官　專任　四人　奏任
各課事務のを分掌す
車馬監　一人　奏任
車馬乘具を管守し馬匹の飼養調習及醫療務を掌る
主事　專任　二十二人　判任
上官の指揮を承け庶務に從事す
調馬師　專任　二人　判任
乘馬調習に從事す
御者　判任待遇
馭馬に從事す
第二十二條 侍從院に左の職員を置き常侍奉仕して秘書及御服御物を管守して兼て診候醫藥及衛生事務を掌る
卿　一人　親任
院務を總理し御璽國璽を尙藏し職員を監督す
副卿　一人　勅任
卿を補佐し院務を掌理し卿事故ある時は其職務を署理す
侍從　專任　十二人　勅任或は奏任內二人勅任
常侍奉仕す
侍從補　九人　奏任待遇
侍從の事務を補佐す
典醫長　一人　勅任
醫務を總理す
典醫　專任　五人　奏任
診候醫藥及衛生を掌る
製藥師　一人　奏任
藥品製煉鑑査及調劑を掌る
醫員　專任　二人　判任
醫藥衛生に從事す
主事　專任　六人　判任
上官の指揮を承け庶務に從事す
(以下次號)

數千人の暴徒

黃海道平山載寧海州等の境界にある角回山と稱する處に暴徒數千名蜂起し尙ほ『ステツピン』『マンドトン』に散在し外襲の防備をなし居る由にて其の首領は元忠淸道木川郡守朴正斌なり彼は元中樞寺洞會淸谷に居住したることあり現日平山郡在住の申萬均なるものを參謀とし陰謀を企てつゝあるが彼等は載寧郡衙より四里半なる長壽山中妙香寺の外同山築城臺を根據とし同山探異岩と稱する約十戸計りの村落に潛伏し居るとの風說あり

驪州方面の賊情

驪州地方の有志たりし安將谷、崔泰山、鄭學奉の三名が暴徒の首領金鳳基の配下に加はりしことは事實にして目下何れへか姿を隱し居れるが先きに金鳳基は配下十數名を率い安將谷は崔泰然方に侵入し白米五石八斗を掠奪し之れを二十九圓にて洞長朴順弘に賣却したる事を發見せしにより洞長を引致したり尙首領林行軒の率ゆる暴徒七十餘名は銃四十餘挺を携へて去月二十二日砥平郡番谷里より驪州郡北面住岩里に足を留め廿三日梨浦方面に向ひたる趣なるがこの暴徒は三山里の敗走者にて目下横城附近を徘徊しつゝありといふ

巡査三名賊百餘と戰ふ

二十二日午前二時頃賊百餘名南陽灣より來り丙川分派所を包圍攻擊せしを以て巡査三名はこれを擊退し追跡して二西面、南元浦の碇泊場に至り茲に對戰すること約四時間賊は乾潮の爲め舟を漕き出すこと能はず一隻の舟を殘し他の一隻に乘りて南陽灣方面に逃走せり巡査は其の一隻及び物品を捕獲したるが警察は兵燹にかゝり其損害約一千五百圓、郵便及取扱所もまた損害を受け其の家約四百圓なり而して捕獲品は銃砲十一挺、刀劍二挺其他火藥若類等なりし

賊義城を襲ふ

義城郡陳古里附近に暴徒數十名侵入し居れる由義城分派所員の探知する處となり所員は直に偵察に赴きたるに約五百十名の暴徒一團をなして邑內に襲來し既に民家に放火し猛烈に射擊しつゝあり所員は當時電線架設保護のため義城郡出張中の兵二名と力を合し共力敵に突擊を開始したるに賊は遂に隊伍を亂し舍谷方面に四散せり賊の即死四名負傷十數名にして此攻擊に於て鹵獲したる物は火繩銃五挺雜品數點にして賊の首魁は朴淵泊及徐某なりしといふ

民團議會

一昨日午後七時より民團役所樓上に於て開會したる民團議會は出席議員十三名にして南大門內小學校敷地家屋購入の件之に對する追加豫算は滿場一致を以て之を可決し總て左の協議案に就き協議する所ありたり

協議案

一小學校舍設備の件
南大門內土地家屋購入の件第一號議案決定の上は小學校々舍の增設は緊急の事業なるを以て來年度に於て南山分敎場を今回購入の土地に移轉し兒童就學の地域を定め東部方面は東大門內小學校に西部方面は日の出町小學校に通學するの便宜を斗り將來第一第二の二校に分ち諸般の設備をなさんとす

一漢城病院病室設備の件
漢城病院院長として能勢博士就任已來入院患者一時に增加を來たしたるも病室の構造不完全なるが爲め漸次減少の狀況を呈し收支償はざるを以て南山分敎場跡地に病室を建築するの計畫なり

一中學校設置の件
中學校設置の件に付ては曩に報告せし通り統監府に於て來年度豫算に編成し大藏省の同意を求めんとせしに新事業は總て削減せられたる趣なり付ては之を民團立と爲さんとするも差向き財政上の困難あり又之を東洋協會に依頼し來年度より設置するも每年一萬圓以內の補助金を交付せざるべからざるの見込なり此の決心を爲すに付ては進んで交涉するの豫定なり

一高等女學校設立の件
小學校卒業後女子中等敎育に就ても前項と同しく緊急なる事業なりとす然るに本年度卒業後中等敎育を望む者既に百有餘名の多數に上り之か設置は一日も猶ふへからざる狀況なるを以て先つ高等女學校及手藝學校を併設するの見込なり小學校の增設と共に來年度に於て先つ支辨し得るの見込なるを以て之れか計畫をなさんとす

一靑坡病院室改善の件
靑坡病院の避病院として不完全なるは今更言ふを要せさる所にして本年度に於ては臨時部及防疫費中より多少の繕修を加へたるも僅に一時を補ひたるに過きす爲めに患者收容上遺憾の點尠からさるを以て來年度に於て之を增築し且在來の建物に大修繕を加へんとす

仁川三銀行重役會議結果

仁川三銀行重役會議は既報の如くなるが愈々一昨日午後七時より開會如左議決せり

一、輸出米穀荷爲替制限の件　大阪朝鮮貿易組合より通牒ありたる荷爲替制限即ち元價の八掛半實行の件は朝鮮貿易の發展穴勝無理なる需要にあらず又大阪方に於て右以上の荷爲替は斷然荷受拒絕をなすとすれば止むを得ず之れを實行せざるべからず但し荷主の信用程度によりて荷爲替以外の信用貸附をなす事あるは勿論なり

二、倉庫貸附交涉の件　韓國倉庫會社より三銀行所有の倉庫貸附交涉の件に付ては三銀行共倉庫會社の仁川に設立さるゝは歡迎すべき事なるも倉庫全部の貸附は從來の荷主及在庫品の關係より今遽かに承諾するを得す故に今日は只出來得る限り會社の要求に應する事、尙會社の要求は倉庫價格の一割を借料として銀行に支拂ふといふも如何に粗末なる倉庫にても荷物の貪入に便なるものあり故に倉庫の價格によりて借倉料を定むるを得さるにより會社は各銀行に個々の交涉をなす

●民團會計檢査 居留民團會計檢查委員中村再造、古城管堂、濱野嘉次郎、森勝次の四氏は昨日午前民團役所樓上に於て理事廳員立會の上定期檢査を執行したり

●龍山民團長選擧 龍山居留民團長選擧は一昨日執行せしが民長代理たる瀧上眞助氏滿場一致を以て撰擧されたるも氏は家事の都合にて長く民長として留る可にあらざればとて或る條件の下に後任者選定せらるゝまで就任することゝなれりと

海關脫税者

僞造統監御用の荷札若しくは僞造大官の名刺を附して煙草其他の高率有税品を內地に輸送し私利を計るもの尠なからずとの風說あり

仁川船渠の改名

仁川船渠會社は今回仁川造船株式會社と改名したるが同工事は近々着工する運びに至らんが其完全なる竣成期は今後十年の豫定にて三萬坪の埋築をなし三千噸內外の船舶を修繕するに足る船渠を築造する豫定なりといふ

●斗量場委員會決議 斗量場再審議に關しては既報の如くなるが其結果穀物協會側より具体的の請願案件を附して差出さしむべき事に議決せり

●仁川三銀行例會 仁川三銀行に於ては今回一回例會を催す事に決定せりと

税務署員の慘殺

忠州郡税務署書記たりし忠州郡北邊面、御林洞、孫海觀は徵税のため同郡蘇坡面へ出張中暴徒七名突然蘇坡面厚美洞に顯はれ各銃器を持し宿泊中の税務傭書記に對し汝は日本人のために使役され徵税するは非理なりとて村端約一丁の地に連行し銃劍を以て慘殺し傭書記に隨行の人夫一名も共に慘殺し何れへか逃走せるが書記の徵收携帶金等は悉く掠奪し書類は燒棄したれば其金額は不明なるも此暴徒襲來に就ては村民は多少事情を熟知せしもの〻如く同所分派所は取調の爲目下面長及里長を尋問しつ〻あり

●任內部の晩餐會 內部大臣任善準氏は昨日午後五時より琵琶洞の自邸に於て李總理以下各大臣を招待し晩餐會を催したり

●故閔泳煥氏追悼會 二十八年日韓協約締結に際し不滿を抱き自盡したる故參政閔泳煥氏の爲め氏の設立せし興化學校にては追悼會を開き終て同校敎師生徒一同は氏の三年祭式に列したりと云ふ

民團税徵收成績

第一期諸税徵收調查表

税別	調定額	收入額	未收入額
戶別税	一五、〇三一、一七〇	一四、六六二、八〇〇	[illegible]
營業税	一、九〇〇、一二〇	[illegible]	[illegible]
土地税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雜種税	一、四四〇、一一〇	一、三九九、九〇〇	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第二期諸税徵收調查表

税別	調定額	收入額	未收入額
戶別税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
土地税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
營業税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雜種税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]
雜種税	[illegible]	[illegible]	[illegible]
月税	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第一期の如き好結果を得たるは民團吏員の督促に依るも亦た居留民が納税義務を重したるに由るものにして他の民團には見ざる所なり第二期は暴徒と防疫の爲め多少未納者あるも之れ又た目下督促中なれば遠からず完納を見るに至るべしと云ふ

▲治外法權▼

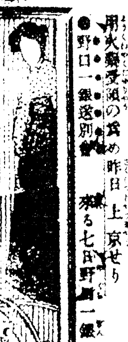
先達ての民團役所落成式は雨中であつたにも不拘會衆多かりしため頗る盛會であつた、正面に掛けたる東鄕大將揮毫の額は立派なものである、賴太郎君たるもの平八郎君に對して敬意の如く立派な治績を擧げられんことを希望するのである▲チト餘計の樣だが當日の會に就て一寸言はねばならぬことがある、諸君はれ氣がつかれたかドウだか、ソレは參會者の顏觸の事である顏觸夫は甚失敬な言葉であるが流石は民團の會丈あつて甚多方面であつたまづ軍人あり宗敎家あり理事廳員あり敎育家あり貿易商あり銀行家あり農業者あり會社員あり新聞記者あり殆んど網羅せぬものはなかつた、併し茲に一つの不思議は統監府の幹部の先生等に地方部長の顏の見えぬことであつた▲三浦君は先約の爲缺席したが代理高瀨副理事官を遣つた、而るに統監府よりは技師某君を除くの外は本人の顏は勿論代理の顏も見へなかつた愛國婦人會でも何の會でもいつも多數を占むるものは統監府の屬々であるのに民役所の會に限つて出て來ぬとは少し解らぬ次第である、民は國の基である居留民は韓國經營の土臺である、此土臺を馬鹿にして統監府が出來ると思へば夫は太なる間違である▲聞くところによれば鶴原君は民團役所を好かれぬソウだ、併し岡君が博覽會で大に世話になつた民團役所を好かれぬとは甚だ心得ぬ次第である▲當日來るべき筈の鶴原[illegible]は見えなかつたが軍の參謀長は見えた之は軍と居留民とが手を携へて韓國經營の任に當ると云ふ前兆であるかも知れぬ

●軍艦訪問 …日午後滿洲丸を訪問せり
…川府尹理事官宮田民長は送別會を兼ね朝鮮樓に於て京仁學士會を催する由
…昨日上京せり
…一昨日來仁せる仁川…寺より二川

●仁川理事官の上京　仁川横山助役は午後用火藥受領の爲め昨日上京せり

●野口一銀送別會　來る七日野口一銀の

●船渠會社員の招待　一昨日來仁せる仁川船渠會社川口一行は昨日午後五時より仁川三新聞記者を[illegible]に招待せり



印度の結婚の話（上）

該化風俗は世の國々によつて異るものはありません、同じ日本の内でも薩摩と會津などは隨分の事、東京と大阪程違つても大分樣子が變りますものを、まして印度あたり、我々の想像以外の事が多いのも尤至極であります、こゝに一寸印度の結婚の事を申上げ樣と存じます。

印度は御承知の釋迦の生れ故郷でありまして、今では印度南端のセーロン島が佛教である外印度の大半島には佛教の影として見るべき遺跡も少なく、僅か幾万人と云ふ信教よりありませず、全土を風靡して居るのは彼の婆羅門教の後身たる印度教でござりまする、而して其宗教は殊に嚴重に族制と云ふ事を申しまする、族制と云へば之は中々面倒の混雜なるもので、一朝一夕に話の出來ない程込入て居りまするが、一寸大體の觀念丈述べると、先づ〳〵宗教的見地より社會の階級制度をつけたものでありまする。第一が婆羅門之は僧侶の階級で、第二が刹帝利（クシヤトリヤス）即ち武門武士の階級、第三が毘舍（バイシヤ）即ち商人の階級、第四が首陀（スードラ）即ち工農の階級をあります、それから此各階級が數百の小部に分れて居りまして、各々の間にかたく結婚を禁じ、かたく職業の轉換を許しません、故に桶屋の子孫は永久に桶屋たらざるべからず、洗濯屋の末裔は百世洗濯屋たらざるべからずとの定になつて若し之を破りでもし樣ものなら、早速宗教的破門をされて社會的に絶交をされます、之に就ては種々六つか敷事もござりまするが、茲には可成結婚以外の事は避けて述べない樣につとめますから、唯族制と云ふ小面倒なる社會に行はるゝ結婚はドウであるかと云ふ事の一段を申上げます。

此婆羅門と刹帝利との間に結婚ありとすれば生れた子は刹帝利に、若し婆羅門と毘利舍と結婚すれば其子は毘利舍に、又刹帝利と毘利舍とあれば同じく毘利舍に墜されまする、から云ふ風に身分の違つたもの同志が結婚する時は、罪は其子に報つて其子は忽ち低き階級になりまする、唯茲に一つ注意すべきは若しも最上の婆羅門が最下たるべき首陀と結婚をする時は其子は別に旃陀羅（サンドラー）と申して所謂穢多同樣に取扱はれると云ふ按排で、御存知もありませうが釋迦は穢多の子なりなど〻當時の婆羅門が言りましたが、即ち此旃陀羅の事でございます、併釋迦は決して旃陀羅ではありませぬ、雪山即ちヒラマヤ山南の一王族でありました即ち刹帝利であつたのです

禮を知らざる者

船渠會社舟崎博氏

仁川船渠會社主唱者の一人舟崎博が一昨日仁川某新聞社を訪問したる折同社記者に對て「仁川の新聞屋を新に招待したいが新聞屋が幾ッあるか」との質問をなしたりと、吾人は今新聞社を呼ぶに新聞屋を以てする氏の見識の下卑にして且禮を知らざるを攻むるの要なし只今後仁川に於て新事業を起さんとする氏等が斯の如く倨傲不遜なるに於ては其事業上に受くべき損害蓋し尠なからざるものあらんを忠告するものなり願らく言辭愼まれては如何（通信員）

●女官の洋裝改正　韓國の婦人は一寸外出するにも轎に隱れ被衣を纏ふて其容貌を人に見せぬ習慣であつたが此の内皇帝の御座所移轉の際に太后が素顏を洒して通行せられ宮内府ではまた女官に向つて今後聊めて洋裝にすべしとの訓諭を發せしより見得坊れちやつぴーの女官等は得たり賢こしと後頭に束ねし髮を俄かに束髮に結び替ね洋傘を翳し洋服を裝ふて逆さ八字を踏み歩行くも滑稽であるが夙に妓生は此の洋裝で人力車に跨り跳ね廻り居りしとて一般の韓人はこの官女をも妓生と見誤り侮蔑を加ふるなり爰に滑稽の頂上ともいふべきは兩三日前或る官女が例の服裝で車に打ち乘り西大門を通過するをヨボの巡檢は妓生と思ふてオイ〳〵何所へ行くのだと質問すると車上に威儀を正し正何品何の誰と答ねたのでヨボ巡檢平身低頭で其の麁忽を詫びたりとか

●●●●●踊舞臺の寄附　京城博覽會演藝館の踊舞臺は今回同會より京城民團へ寄附されたれば民團にては之を倭城臺適當の地に移轉し多少の設備を施し公會又は宴會の用に供する筈なりと

●汽車に發砲す　去る二十八日午前四時十分南行汽車が一山驛の北方約二哩の所を進行中何者とも知れず汽車に向つて發砲したるが幸に乘客には負傷者もなかりし此の加害者は或は過日西氷庫に現はれたる暴徒の殘黨にはあらざる乎

●熊本貧兒寮の幻燈　目下滯京中の熊本貧兒寮員廣田、菊池兩氏は一昨夜熊谷民長邸に於て昨夜は日の出町小學校に於て同寮の幻燈を催し多數の來觀者ありたり

大膽なる強盜

昨日草木も眠ると云ふ午前の三時頃仁川港理事廳通り未永吳服店の二階なる窓硝子を破り段梯子を下り來り店に至りて八人の店員が寢ね居るを呼び起し一尺五寸餘の刀を拔き放ち電話線を切斷して主人の寢室に案内せよ若し否やと云つたが最期一人も殘さず叩き斬ると氷の如き刀を差付けたれば八人の店員はブル〳〵震ひ上り一人として手向ひするものなく已を得ず主人の寢室に案内したれば賊は又た例の如き文句を並べ金を出せと威せしに主人も恐々ながら金はないと答へしにない筈はないとて八圓餘入の手提金庫を強奪し此間一時間餘悠々閑々として立去りたるには其大膽さに人皆な舌を卷かぬはなかりしと

●宮室の賊　去る二十八日の本紙に記載したる韓宮室の賊宣沫玉外一名は昨日法部へ回送せられたり

●醉漢の說諭　當地大和町一丁目ペンキ職千葉縣平民田島榮治（二十）は一昨二十九日午後五時頃頗る酩酊して本町一丁目の莊子辨護士の事務所に到り暴言を放ち果ては暴行に及びしより巡回の巡査に引渡され警察署に於て大眼玉を頂戴せり

●新妓の顏出し　年は二八か二九からの花の容顏月の眉と迄は行かざれど兎に角生れが東京丈に何となく垢拔けのせし處は流石に違つたものなりと先づ前置きをして愛に粹樣方に紹介するは生れは東京市本所區林町二丁目名は內山わか年の頃は山雀小雀四十雀でなく正に是れ落花流水の情の都なる廿二才月雪花の眺めに因みて此度び新町月下樓より其名も花奴と銘を打つて障子スラリ……今晚はアリーといふ寸法で

●日曜說敎　メソヂスト敎會にては旭町二丁目名古屋城內なる同敎會に於て本日午前十時より日曜學校及び聖書研究會を開き十一時より木原牧師の禮拜說敎あり午後七時半よりは同牧師の傳道說敎あるべしと云ふ

●●正誤●●　明治四十年十一月二十九日貴社發行京城新報第十七號雜報欄内に「博覽會の看守盜」と題する記事中に拙者が當地龍山通青坡居留原籍岐阜縣平民說田五十二（四十）及び京城南山町四丁目居留宮城縣平民熊谷謙治（三十）に京城博覽會辻屋出品指輪を擔保として金百三十圓を前記二名に貸付せし如く記載有之候へ共拙者は常に懇意なる京城明治町一丁目阿部等人に貸附せしものにて直接貸附せしものには無之候間御手數の段恐れ入り候へ共左樣御正誤相成相成度此段新聞條例に依り申込候也
明治四十年十一月三十日　右吉川嘉右衞門
京城新報社御中

▲塵芥箱▼

皆さん朝鮮語の喇叭節を一ッ聞かせようよ「チゲクン、ハンメン、イリオナラ、南大門、チョンゴチョン、オツカツソ、サツク、ハンプンリーパリヨ、ピヤクトンツーブン、タンダニチヨツソ」（朝鮮通）▲記者さん貴方の新聞で小品文を募りませんか願ひですワ（糞女史）▲今それに就て相談中です何れ實行の際はドシ〳〵投書を願ひます（係り）▲南大門驛の電信係に十七八の小僧で馬鹿に威張る奴がある驛長さんドウカ叱つてやつて下さい顏は鼬に似て居ます（仁川行）▲民役所の汚物掃除は近頃大層行き屆いて來たやうです多分民長さんのお叱りが利目になつたでせう（人民）▲紅筆日記は近頃はトント出ませんね那の花魁は本統に可憐想ですがどうなつたでせうどうか引續き出して下さる譯には參りませんか（浮川竹の身）▲記事が輻輳して居るものですからツイ已むなく掲げませんでしたが近々の内に又出します（係り）▲「無限の熱血」は實に悲絕慘絕の極だ僕は每朝那の記事を見るのを樂みにして居る記者足下願くば休みなく續いて揭載あらんことを乞ふ又那の執筆者は誰ですか（熱淚者）▲執筆者に差あるか又は已むなき紙面の都合上の外は休まぬ積りです（係り）▲當局者に告ぐ一つ京城の淫賣狩りをなしては如何今や淫風巷に滿ち風紀又大に衰ふ豈に憤慨の極ならずや（憂國生）▲僕一ッ自作の二上り新內を御披露しやう「掛けしかけに何に罪あらう情け鄙の女郎花咲くは一時の花なれど咲かねば主に實がない」惡い所は遠慮なく添削して下さい（歌氣狂ひ）▲南大門通四丁目の川東屋の親爺は慳貪なるには實に驚くの外は無い愛嬌も糞も無い野郎だ（近所の者）

「無限の熱血」を讀む　五

錦陵生

貧困は實に君が一家に附き纏へる一種の痼疾となりたるなり、貧困の惡魔の手は既に君が家庭を擧げて捕虜となし了せるなり、慘風暗雨夫れ何れの日にか晴れ遣るべき、既に淚に乾き、聲に咽れたる一家七人は此の焦熱地獄の苦境に際し相抱き相擁し、反側輾展只だ死の一事を俟つのみなりしなり或日母は君に向ひ乾然たる態度もて「斯くなる上は負苦もしはや逃るゝに道なし寧ろ死するの外あらず」と言ひ終りて心中既に意を決せるもの〻如し、君は此の悲痛膓を裂くが如き一語に潸然として暗淚の滂沱たるを禁じ得ず、母を擁して一家の不幸を喞ちたりしも丈夫の事如何で斯くありてなるべきぞと我れと我が心を勵しつゝ必ず近き將來に於て幸運の神の來るべきを母に誓ひ漸く母を慰め且つ勵ましにき杖と賴み柱と縋らるゝ君が身は到底軍職に在りては此の悲慘なる一家を挽回せんこと覺束なきを以て爰に斷然其の職を辭するに至りたるが、君が平常父母弟妹に對して孝悌の心篤きは隊中の龜鑑となり又上官の嘆賞を贏り居りしを以て其の去るに臨みて左の如き餞別を受けたり

予は已むなく請暇の願書を提出せしかば間もなく許可せられたりされば先づ長谷川聯隊長を始め鈴田大隊長山本中隊長等に多年の恩顧を謝し訣別を告げしに何れも懇篤なる訓諭を與へられ歸家の後にも倚ほ出來得る限りは助力せんといと親切なる言葉もて慰められければ予は其の厚意を感謝し次に小隊長武井信光氏の室に至りしに氏は金六十圓と記せし一封を與へて此金は君に與ふるものに非ず貸與するものなれ共別に返濟の期限もなく且つ利子を附するにも及ばず只是を資本として一家の窮厄を助けられよと云はれしかば予は思ひ懸けなき惠みに夢には非ずやと一時は茫然爲す所も知らざりきかくてあるべきにあらねば予は同氏の厚情を感泣して其室を退き同僚の人々にも別を告げ營門を出でんとするとき下士團の有志諸氏は金四十圓を予に惠まれたり

皇天決して淚なきに非ず、神佛決して情なきに非ず、君が一家の困厄に對する赤心赤意は端なくも爰に現はれ一道の光明の輝き來りたるを以て感激發憤措く能はず假令如何なる苦辛慘憺を經るも粉骨碎身以て家運の悲境を救ふべしとなし甲斐〳〵しくも愛に豆腐業を營まんと志し之が見習として或る處に暫時身をば委ねたり君が事に當つて熱心にして勉勵なるは一ケ月許りにして豆腐業を習得し既に一人前として耻しからぬ腕前を有するに至りたるを以て愛に新たに一家を借り受け店を開くに至りたるが其の製造頗る繁忙を極め朝は雞鳴を聞きて寢を出で夜は又深更に至る迄孜々業を勵みたり

